

2017年度Aセメスター留学プログラム 活動報告書

文科二類2年渡邊椋太

1. はじめに

私は2017年度Aセメスター留学プログラムに参加し、韓国のソウル大学校に交換留学をしている。私は後期の進学先で教養学部地域文化研究分科に内定しており、専攻として韓国を中心としたアジアの文化について現地で学びたかったことからこの留学を志願した。今回はまだ留学の途中ではあるが、今までの活動を総括するとともに、来学期の留学の希望理由についても書き記したいと思う。

2. 学業

私のソウル大学での講義は大きく二つに分けられる。一つは平日午前を取っている語学堂での韓国語の授業である。私は現在6級に属して応用的な文法や単語を学んでいる。授業で学んだことは生活でも大いに生きるものばかりで、会話の理解力が大きく向上していると実感している。また語学堂では新聞を教材に韓国の社会情勢を学ぶ授業も行われており、教育問題のような単に日韓関係に限らない韓国独特の問題についても学んでいる。語学堂で学んだ韓国語をベースに次学期はより積極的に韓国語での授業を選択しようと思っている。

もう一つは、午後を取っている一般の講義である。中でも韓国文学入門の授業では朝鮮時代から現代までのあらゆる文学を読み、韓国文学の特徴を学んでいる。この授業では韓国の文化の下地を学ぶ契機になっており、情の観念や日本に対する市民の思想について毎回考えさせられている。また、自律研究という授業では以前BESTプログラムで交流した学生とともに東アジアの平和とカントの『永遠平和のために』の関連性についてグループ研究を行っている。お互いの政治的立場について理解を深めるいい機会にもなっているが、何よりも日本と韓国が同じ方向を向き進んでいくことが困難だということも実感している。また他にも中国語やデータヒューマニティーに関する講義も取っている。

これらの講義を通して、韓国の文化について多くの知識を得た上、自ら考え創造する機会に恵まれていると感じている。一方で、問題としては、韓国語での授業を中国語しか取っていないこと、そもそもの授業の選択数が少なかったことなどがある。語学堂では想像よりアウトプットの機会が少なく、留学に来て現地語の講義を積極的に取るなどの行動を取っていかなければならないと実感した。また、韓国語の留学前に十分な情報を得られなかったために、登録した時には多いと思っていたコマ数でも、実際には他の学生より少なかった。一つの授業により関心を持って取り組めたが、韓国のあらゆる面に触れ合うためにより多くの授業を取っていればよかったと思った。

3. その他の活動

今学期はあまり課外活動には参加しようとはならなかった。ただし、韓国語の学習も兼ねて来ている中で、積極的に動かなければ韓国語を使う機会を得られないため、何らかのコミュニティに参加したいと考えている。

4. 留学継続の希望について

ここまでの活動を踏まえ、なぜ留学を継続したいと思ったかについて説明する。まずは、より多くの講義を取り、韓国のあらゆる面について学びたいということだ。今学期韓国の文学や戦前史に関する講義を取得したが、韓国の政治史や経済史などの講義も取りたいと思っている。そして、具体的な卒業論文内容などが決まってない私にとっては、講義で取り扱った内容に関する文献を参照することが多い。そのため興味関心、問題点が講義でより多く引き起こされることでより効率的に多くの文献を読むことができると思っている。二つ目の理由としては、韓国語の習熟度を高めたいという点である。やはり韓国に来たことで実際に韓国語を使う機会が増え、語学堂で学んだことを生活で使うという学習サイクルができています。しかしながら、まだ不自然な点があったり、自分の知らない語法があったりして、苦勞することが多い。私は社会人になっても使える韓国語を習得したいと思っているのでそのためにも現地での会話の機会が必要だと感じている。

以下の理由から私は次学期の留学を希望する。